

令和8年度「博物館機能強化推進事業（専門的人材派遣）」 専門家の応募に係る質疑応答集

No.	カテゴリ	質問	回答
1	事業内容全般	前年度からの主な変更点とその理由について教えてほしい。	主な変更点は以下の3点です。 ①支援テーマに「運営方針・中期計画・評価点検に関する知識・技術の提供」が追加されました。 ②文化庁が特に認めた場合、個別館への支援時間が最大60時間とすることが可能になりました。 ③文化庁の謝金単価の改訂に伴い、謝金が増額になりました。
2	事業内容全般	本事業を通じて、文化庁として今後特に活躍を期待されている専門家像や分野があれば教えてほしい	本事業は、博物館の役割の多様化・高度化に対応できるよう、博物館職員の資質向上のため、専門家による伴走型の支援を想定しておりますが、その中で、専門家の方々にも多様な博物館現場の実情や課題について知っていただき、博物館を支援する知識やスキルを伸ばしていただければと考えております。 本事業における4つの支援テーマは、いずれも新しい博物館の役割を果たしていくために非常に大事なテーマであり、個別博物館での取り組みを進める一方で、これを横断的に支援できる外部人材の育成についても期待しているところです。
3	支援内容	具体的にどのような支援を行うのか、求められる専門性のレベルの参考になる情報を教えてほしい。	専門家の派遣を希望する博物館側の運営体制等に合わせ、求められる専門性のレベルは大きく異なりますので、支援内容を個別検討いたします。
4	支援内容	本事業で想定されている「ファンドレイジング活動支援」の具体的な範囲について教えてほしい。各種メディアを通じた情報発信やクラウドファンディング等を組み合わせた価値発信や支援者との関係づくりも対象となるか。	博物館側の課題・ニーズを基に、支援内容を検討していくこととなりますが、ご質問にあるようなSNSや各種メディアを通じた情報発信や、クラウドファンディング等についても、対象になります。
5	支援体制	複数人の専門家が派遣されるのは、どのような課題や条件の場合でしょうか。	個別館ではなく、関連団体への派遣については、支援時間が150時間と長くなるため、複数名の派遣も検討します。個別館については、基本的に1館1名での派遣になりますが、博物館側の希望・ニーズを踏まえ、専門家1名の専門性では課題解決が難しいと思われる場合は、複数名の派遣を検討することがあります。
6	支援体制	法人で応募し、マッチング後に、支援予定者が変更になった場合はどうなるのか。	支援予定者が変更になっても、ただちにマッチングを取り消すことはございません。新たな支援予定者の実績等を改めてご提出いただいた上、博物館側とも相談の上、マッチングの継続可否を検討いたします。
7	支援時間	どのような場合に、個別館への支援時間が最大60時間とすることが可能になるのか	伴走支援の進捗を踏まえ、30時間を超える支援について博物館側から要望があった場合、支援時間を最大30時間から60時間に増やすことで、専門家派遣の効果がどの程度向上するかを個別に検討の上、文化庁が特に認めた場合、60時間までの支援を認めることがあります。また、複数名派遣することで、支援時間の合計が30時間を超える場合なども想定されます。 なお、支援計画作成段階においては、個別館の場合、上限30時間を前提に計画を作成します。

8	支援時間	過年度、専門家として活動したが、集合研修の準備負担が大きく、支援時間の半分では収まらなかったが、このような例外について、個別に相談は可能か。	博物館側の希望により、想定以上の準備期間が必要になることも考えられるため、ご状況に応じ、事務局にご相談ください。ただし、原則としては、支援上限時間の半分以上以内に収まる範囲でご準備いただければと思います。
9	マッチング及び支援計画の作成	専門家とのマッチングにおけるニーズ分析はどのように行う予定か。取り組む課題の細分化（やゴール設定）が自館でできていないというニーズに対し、専門家で支援することも想定されるか。	博物館側からの応募内容を基に、事務局にて追加ヒアリングを行いながら、博物館側のニーズを整理し、それに対応した専門家のマッチングを行います。その後、博物館・専門家・事務局を交え、顔合わせを兼ねた面談を行い、支援期間中に取り組むべき課題の確認や、目指すべきゴール設定を行います。博物館側の取組状況により、課題の細分化や課題解決に向けたロードマップの検討について、専門家が伴走することも考えられます。
10	マッチング及び支援計画の作成	支援計画作成にあたり、事務局はどこまでの検討を行うのか。	事務局にて、博物館からの応募内容や、専門家派遣に関する事業の枠組・諸条件を踏まえて、支援計画案の骨子を作成します。その後、マッチングいただく専門家に御確認いただき、増補いただきます。その後、博物館・専門家・事務局を交え、顔合わせを兼ねた面談を行い、支援期間中に取り組むべき課題の確認や、目指すべきゴール設定を行います。支援計画の作成に当たっては、支援の効果が持続的なものになるよう、博物館側の人材養成をどのように図るかが大きなポイントになります。
11	マッチング及び支援計画の作成	専門家の派遣を希望する博物館のリストをいただき、専門家からも支援先・内容について提案することは可能か。	博物館側の内部情報も含まれるため、開示可能な情報の範囲は限定されますが、博物館側のニーズ・課題については、可能な範囲で専門家にも情報提供した上で、マッチング及び支援計画の作成を行います。
12	支援に係る費用負担	博物館に派遣された場合、現場での活動に予算はつくのか。	文化庁からは、派遣される専門家への謝金や交通費等の実費を負担いたしますが、それ以外の、博物館等の現場での活動に要する費用は、博物館側で負担することになっており、その予算の規模・内容は、博物館により大きく異なります。例えば、デジタルアーカイブ等に関するロードマップ作成など、専門家の皆様への謝金等以外には多額の予算を要しない支援内容もあれば、広報のように、博物館の既存の予算の中で伴走支援を行うこともあります。
13	支援に係る費用負担	専門家として活動する中で、調査やコンテンツ制作を発生した場合の費用は、博物館が了承すれば支出可能なのか。	本業務は、博物館が主体的に行う取組に対し、専門家が伴走支援を行うものとなります。このため、例えば、元々博物館職員が主体的に関わることなく外部委託等で対応する予定であった業務を、本業務において専門家が直接実施することは想定しておりません。
14	支援に係る費用負担	例えば、博物館側が使用しているデジタルソフトが特殊であったため、事前に書籍など購入せざるを得ない場合、費用は誰が負担するのか。	原則として、派遣される専門家への謝金や交通費等の実費以外の、博物館等の現場での活動に要する費用は、博物館側で負担することになっております。このため、まずは博物館にご相談ください。ただし、博物館側でご負担できないものの、真に必要な経費であることが確認できる場合は、事務局で負担可能か個別に検討いたしますので、事務局までご相談いただければと思います。
15	応募方法	専門家に期待される実績・資質について知りたい。	説明会資料のP18を参照ください。また、博物館側の人材養成に繋げるという事業趣旨にかんがみ、専門家の方には、支援テーマにおける専門的知見だけでなく、それを博物館の職員に伝えていくコーチング力も重視します。

16	応募方法	複数テーマに応募することは可能か。	原則として、1 テーマのみの応募としますが、別テーマと並行して応募することは可能です。その場合、事業申込フォームをテーマごとに2件作成ください。その際、フォーム最後の「事務局への連絡事項」に、優先順位をご記載ください。
17	応募方法	法人で応募する場合、法人での実績と、実際に支援を担当する個人の実績とどちらを重視されるか。	法人で応募する場合であっても、実際に支援を行う個人の実績や、コーチング力を重視します。
18	応募方法	重視される「コーチング力」は、応募書類のどのような実績や記述から評価されるか。また、コーチングに関する資格も評価対象になるか。	研修やワークショップ等の講師実績等が該当すると考えられます。そのほか、コーチングに関する資格も評価対象になりますので、事業申込フォームにご記載をお願いします。
19	応募方法	複数テーマへ応募した場合、複数テーマで専門家としてマッチングされる可能性もありますか。それとも、原則 1 テーマのみのマッチングになるか。	博物館側の応募状況に基づき検討いたします。博物館からの応募内容の精査と、専門家の選考・マッチングは並行して行うため、状況に応じ、個別に御相談させていただきます。